

「めだか大学通信 16号」

2013/6 岡田京子

日本の伝統音楽である民謡やわらべ唄の中で、リズムはどんな形のものがあるだろうと言う例で『あんたがたどこさ』や『ひでこ節』などをとりあげて来ましたが、特に、誰でもよく知っていて、すらすらと歌える『あんたがたどこさ』のリズムの複雑さに驚かれたと思います。言葉に添っていけば、こんなに複雑で難しい歌も、平気で作れるし歌っていけることを、替え歌をつくることでよくわかったと思います。このことでわかったことは、「現代に置き換えてみるのが伝承の第1歩」と言うことでした。

みんなが作った替え歌は、すごく大胆で、ユーモラスで面白かったです。これを十分にみんな楽しんでから、このリズムで新しい自分の歌を作ってみるところまで行ってみることができれば素敵だと思います。まだ出していない人、もっと出来た人送ってください。次回のうた小屋でやりましょう。

「あんたがたどこさ」替え歌大会

、 岡田（みんなに代わって）

あんたがたどこさ めだかさ

| にんじんさ にんじんってなにさ |

どこのめだか | つくり小屋さ つくり小屋ってなにさ | それさ

| すみれだよ すみれってなにさ |

それがわかれば 苦労はないのさ やればやるほど わからなくなるのさ
書いてさ 消してさ 破ってさ それでその紙 チョイとかくす

稲川恵子（つくり小屋）

あんたがたどこさ 越後さ

あんたがたどこさ 越後さ

越後どこさ 十日町さ

越後どこさ 七々浦さ

十日町どこさ 鉢さ

七々浦どこさ 角田さ

鉢の山さは 雪んこの下さ

角田の山は岩ばっかあってさ

それをお天道さんがちとずつ溶かして

佐渡に行くには何のっていくさ

てっぺんがさ 枝がさ 幹がさ

くじらさ いるかさ 亀さ

それで木の芽が ちょいと顔出す

たらいの船を 漕いでいくさ

小池久美子（つくり小屋）

あんたがたどこさ 雪国さ
雪国どこさ 魚沼さ
魚沼どこさ 米所さ
雪解け水を 田んぼに流してさ
それで美味しい お米が出来るのさ
うまいよ 高いよ 太るよ
それが魚沼 こしひかり

あんたがたどこさ 越後さ
越後どこさ 八海山さ
八海山て何さ お酒さ
八海の山には 湧き水あってさ
それで美味しいお酒が出来るのさ
飲めるよ うまいよ 酔うよ
それがあぶない 八海山

あんたがたどこさ 越後さ
越後どこさ 魚沼さ
魚沼どこさ 権限さ
権限道山には 鬼ばばおってさ
それで悪い子を さらって行ってさ
煮てさ 焼いてさ 食ってさ それが権限道の 弥三郎ばあさ

斉藤枝（つくり小屋）

宝くじ買ったかい 買ったさ 何枚さ 一枚さ
一枚じゃ駄目さ 当たらん
当たるかも知れん 当たったらいいな
100枚買っても 当たらなきゃ損さ
だから 一枚 買ってさ それで大きな 夢を 見る

あんたは誰さ オレさ オレって誰さ オレだってば
オレだけじゃわからん 息子さ
息子なんて 私にはおらん そんな手には 絶対乗らん
バカだね アホだね 下手だね
そしたら慌てて 電話は切れた

あんたがたどこさ 埼玉さ 埼玉どこさ 新座市さ
新座市ってどこさ 新堀さ
新堀の畑には 野菜が一杯あってさ
野菜大好き 一杯買ってさ 煮てさ 焼いてさ 食ってさ
それでこんなに 美人だよ！

名取真理子（にんじん畑）

あんたがたなにさ 団塊さ 団塊ってなにさ ベビーブームさ
それってなにさ 目立つのさ
子どもの時は すし詰め教室で それが終われば 受験戦争で
大学紛争 大量退職 介護難民
いつでもどこでも ひとくくり
（これじゃあの世でも 目立つのさ）

増田康子（にんじん畑）

あんたって何さ ヤッコさ
ヤッコって何さ プータローさ
プータローって何さ ひまなしさ
仕事もないのに あっちこっち行ってさ
やればやるほど 貧乏になるのさ
歌ってさ 弾いてさ 吹いてさ
そこでヤケ酒 ちょいとイッパイ

渡辺ミヨ子（にんじん畑）

あんたがたどこさ 福島さ 福島どこさ 郡山さ
郡山どこさ 西田さ 西田町は 空気だけはいいのさ
それを地震が来て 放射能も来てさ
吸ってもさ 吐いてもさ 消えないのさ それがこの先ずっとつづく

上原涼子（にんじん畑）

あんたがたどこさ 練馬さ 練馬どこさ 土支田4丁目さ
4丁目ってどこさ はたけさ
はたけにゃキャベツ・にんじん 大根・ジャガイモあってさ
それを 抜いて 掘って ごっちゃ煮にしてさ
食べてさ うまいさ ヘルシーさ それでわたしは S サイズ

村上稔子（すみれ分教場）

あんたがたどこさ 京都さ 京都どこさ 桂川さ
桂川ってどこさ 西山さ 西の山には 丹波栗なつてさ
それをワルガキどもで 盗みに行ってさ
ビクビク ドキドキ 見張りする
それが私の 思い出さ